

朝日大学病院を受診された患者さまへ

研究情報の公開について（オプトアウト）

通常、臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明し同意をいただきます。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いるものは、国の定めにより、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はなく、研究の目的や方法などの情報を公開のうえ、拒否の機会を保障しなければならないものとされております。このような手法を「オプトアウト」といいます。当院では、このオプトアウトを用いた研究を下記のとおり行います。研究への協力を希望されない場合は、下記に記載の担当者までお知らせください。

研 究 課 題 名	下顎再建術後のプレート関連合併症についての検討
当院の研究責任者 (所 属)	歯科口腔外科 講師 長縄鋼亮
他の研究機関および 各施設の研究責任者	朝日大学歯学部歯学部口腔病態医療学講座口腔病理学分野及び同口腔外科分野 研究責任者 口腔病態医療学講座口腔病理学分野 教授 永山元彦
本 研 究 の 目 的	下顎に発生した疾患の治療で下顎骨が切除される場合、下顎の連続性を保つために自分の他の部位の骨を移植する手術が行われます。下顎骨と移植骨は、チタンプレートとスクリューで固定されます。術後の治癒経過が良ければ、下顎骨と移植骨がくっつきひとつながりになりますが、うまくくっつかない場合があります、プレート関連合併症と呼ばれています。このような合併症を減らすために、関連するリスクのある因子を調べて明らかにすることで、上記の様な手術を行う際に、より強い固定用チタンプレートやスクリューを選択したり、移植骨の形を工夫するなど、事前の対応ができるようになります。
調査データ該当期間	2007年1月1日 から 2024年12月31日
研究の方法（使用する 資料等）	背景因子（年齢、性別、PS、既往歴） 治療因子（原疾患、癌であればTNM分類およびステージ、放射線治療があればその内容、手術術式、骨接合部の位置および形態、 腓骨のセグメント数、固定に使用したプレートの種類、） 画像因子（下顎骨の厚さ、腓骨の厚さ、骨接合部の接触面積） 有害事象（術後創部感染、皮弁壊死、骨癒合不全）
試料/情報の他の機関 への提供	奈良県立医科大学附属病院 口腔外科
個人情報の取扱い	カルテIDや氏名などの個人情報を研究用IDに置きかえて使用するため、あなたの個人情報が外部へ漏れることはありません。 研究の成果は、学会や学術誌などで公表されますが、この場合も、個人が特定される情報が公開されることはありません。
本研究の資金源（利益 相反）	本研究では、対象者に生じる経済的負担、謝礼はありません。利益相反は生じません。
お 問 い 合 わ せ 先	研究代表者 歯科口腔外科 講師 長縄鋼亮 (TEL：058-253-8001)

備	考	
---	---	--

